個人の市場価値の向上と生涯成長を支える

NEWS LETTER

EAT
Education for Asian Talents

株式会社人財アジア 定期ニュースレター

vol.45

2026 年 05 月

☐ 岡村の最近の注目ニュース　☐ ビジネス予備校近況リポート　☐ B-EAT 会活動報告　☐ What's up?

言葉には人を動かす力がある。

だからこそ、
思考を停止させるのではなく、
思考を促す言葉を大切にしたい。

2026/05

みなさんは、「メンパ」という言葉を聞いたことがあるか？若手に聞いたら、まぁまぁの反応にとどまったので、タイパほどの市民権は得られていないようだ。ただ、大学で教える友人が、「“メンタルをやられている”と口に出す若手が増え、ファッション化している」と言っていたので、メンタル関係への意識は高まっているのだろう。

N°	TERM / 流行語	ERA / 流行期	ORIGIN / 発端・仕掛け人	CONTEXT / 背景
01	コスパ COST PERFORMANCE	2000s ～	1980～90年代の**オーディオ・AV・家電雑誌文化**が源流。明確な仕掛け人はいない。	デフレ時代、**「安くて満足」**が重視され一般化。
02	ブラック企業 BLACK COMPANY	2008 — 2013	2000年代初頭のネット掲示板・就活コミュニティ発。広義では**今野晴貴**らの告発活動が拡散に寄与。	長時間労働、サービス残業、**若者酷使問題**。
03	ホワイト企業 WHITE COMPANY	2010 — 2015	**「ブラック企業」の対義語**として、就活メディア・人事業界が使用。	福利厚生・離職率・**働きやすさ重視**。
04	ゆるブラック企業 YURU BLACK	2013 — 2016	**常見陽平**や就活評論界隈で拡散。大学キャリア論でも使用。	**「楽だが成長できない」**不安。
05	タイパ TIME PERFORMANCE	2020 — 2022	**Z世代SNS文化＋TikTok・倍速視聴文化**が加速。明確な発明者はいない。	情報過多、短尺動画、**効率重視**。
06	メンパ MENTAL PERFORMANCE	2023 — 2025	Podcast『**奇喜怪快**』や若者マーケ界隈から拡散。明確な発明者はいない。	SNS疲れ・炎上疲れ・**精神コスト回避**。

流れとして見ると、効率化の対象が「お金 → 労働環境 → キャリア → 時間 → メンタル」に移っているのが面白いところです。

わたしは、“ブラック”という言葉がはやり始めたときに、ひ弱な人が増産されそうだな‥、と若手に与える影響を危惧した。案の定、“ゆるブラック”というより戻しがきた。「ブラック」という決めつけの強い言葉が、社会的許容限度を超えたひどい経営を諫める効果があったとは思う。ただ、普通に経営されていた組織に、人によって異なるはずの働く意義・意思から目をそらさせたことや、人との関係作りに怯えを感じさせる要素を埋め込んだことは、大きな弊害であったと振り返る。多くのみなさんは、流行語に翻弄され、右に左に無駄に振らされる必要などなかったのではないか。

言葉には人を動かす力がある。
だからこそ、思考を停止させるのではなく、思考を促す言葉を大切にしたい。

例えば「理不尽」という言葉。格闘しがいのある言葉ではないか。時々、生徒のみなさんに、“理不尽”と言えば何を思い浮かべるか尋ねると、様々な事例を挙げてくれる。“仕事量が自分だけ多い”、“なぜ？の説明なき業務命令に憤る”、“指示がころころ変わる”、“上司の前で部下を売る“、さらには広く社会に目を向けて”車の貰い事故“などもあがってくる。どれも共感が湧くものばかりだ。

理不尽は世の中から消えてなくなることがあるだろうか？誰もが、残念ながらＮＯと答えるはずだ。不完全な人間による不完全な営みが企業や社会の本質だ。そもそも、あなたが理不尽に感じることも、相手からしたら自衛のための合理的判断であることが多いのだ。だからこそ、最近耳にする「メンパ」という言葉への盲従に再び危機感を覚えてしまう。大事なのは、世の中から消えない“理不尽”としっかり向き合い、考え、「心の賢さ」を磨くことではないか。ぜひ、流行に左右されない王道をまっすぐに歩んでほしい。

本日寄稿くださった牧さんは、オーナーがどんどん変わるメーカーを経営され実績を出してきた方だ。時には理不尽さに直面したと想像されるが、常に論理と情緒で乗り越えるご姿勢から多くを学ばせていただいた。

注）この隔月ニュースの内容をさらに充実させ、発信していきたいです。メールアドレス等の変更は総務企画までお知らせくださいね！

（EAT 代表　岡村 進）

「タイパ至上主義」の君へ

――失敗から学んだ「組織内学びあい」のすすめ

前　(株)TOTOKU
代表取締役社長 兼 最高経営責任者
元　古河電気工業（株）
取締役兼執行役員、戦略本部長
牧　謙　　氏

1. 効率化の果てに待つ「個の孤独」

現代は、かつてないほどの変革期にあります。AI 技術の急速な進展は、私たちの働き方を劇的に変えました。指先一つで正解に辿り着き、最短距離で成果を出す。世界全体が「効率」や「コスパ」、そして「タイパ」を至上命題として動いています。

こうした時代背景の中で、若い皆さんが「自分をいかに効率よく高めるか」という個人主義的な志向を強めるのは、当然の生存戦略かもしれません。しかし、長年組織を預かってきた私には、その先に一つの懸念が見えます。すべてを個人で完結させようとすることで生じる「成長の孤立化」です。情報という「点」は集まっても、それが他者との関わりの中で「知恵」へと昇華される機会が失われつつあるのではないか。そうした危惧から、私はある試みをしました。

2.「教える側」と「教わる側」の逆転

私が向き合ってきた近年の若手社員は、驚くほど高い成長意欲を持っています。しかし、その意欲が個人ベースに留まり、必ずしも組織全体の成長につながらないもどかしさがありました。一方で、IT リテラシーや統計処理などのスキルにおいて、若い人が優れ、逆にベテランは不得意な人が多いという現実がありました。また、ベテラン層の多さゆえに、若手が部下をマネジメントする機会が訪れにくいことも課題でした。

そこで私は、若手を講師に、ベテランを生徒に見立てたリテラシー向上のための「学びの場」を作りました。できる若手に先生役を依頼し、IT スキルに課題があるベテランをその上司からの推薦で選抜する。スマホの操作から最新ツールの活用まで、若手の知識をベテランに伝承してもらうのです。若手には「教える」経験を、ベテランには「学び直し」の機会を提供し、部署の垣根を超えた交流が組織に新たな風を吹き込むことを期待しました。

3.「良かれ」という思いが生んだ壁と、その先の光

しかし、この試みは思うようには進みませんでした。気楽な取り組みで始めたはずでしたが、そこには見えない壁がありました。先生役の若手も、推薦されたベテランも、どこかで「これは業務の延長である」という意識を拭えず、学びが義務感に支配されてしまったのです。社長の思いだけでは、人の心の奥底にある「楽しんで学ぶ」という感情まではデザインできない。私は組織運営の難しさを痛感しました。

そこにあったのは、スキルの移転以上に価値のある「心理的安全」の構築でした。互いの弱さを認め、等身大の人間として向き合う。同じような問題意識を持つ仲間が身近にいるという気づき。形式的な場が解けた後に残ったのは、相手を尊重する「組織の温もり」だったのです。

4. 最高の「コスパ」は、身近な学びあいの中にある

AI がどれほど進化しても、最後に私たちの背中を押すのは、誰かに認められた実感や、共に困難を乗り越えた連帯感です。一人で画面に向き合い、最短距離でスキルを習得することは効率的に見えるかもしれません。しかし、身近な人と気楽に学びあう。この泥臭く一見非効率なプロセスこそが、実は最高のコスパを生み出し、組織に良好な人間関係を構築する近道なのだと私は確信しています。

若い皆さん、完璧である必要はありません。ベテランの無知に驚き、自分の知識を惜しみなく分かち合ってください。個人主義が加速する今だからこそ、あえて「他者と関わりながら学ぶ」という選択をすること。それが、あなたという個性を輝かせ、不確実な未来を歩むための最強の武器になるはずです。

B-EAT　ビジネス予備校の OB/OG による地域を超えた繋がり

本年度の各クラス代表幹事による幹事就任および所信表明

B-EAT 東京 代表幹事

長谷川 秀典 さん
EAT ビジネス予備校　東京クラス 11 期生

このたび、B-EAT 東京（東京クラス 11 期）の代表幹事を拝命いたしました、長谷川と申します。EAT で得た視点と仲間とのつながりを力に、これまでの B-EAT の歩みを大切にしながら、対話の機会と懇親の場を組み合わせ、学びとつながりが深まる運営に取り組んでまいります。
皆さまに『来てよかった』『また関わりたい』と思っていただける場づくりを目指します。何卒よろしくお願い申し上げます。

B-EAT 福岡 代表幹事

中尾 修大 さん
EAT ビジネス予備校　福岡クラス 9 期生

福岡クラス 9 期の代表幹事を拝命しました中尾修大です。この一年、講師陣の情熱と知見に触れ、思考を止めずに考え抜くこと、そして構造的・本質的に事象を認識する視点を学びました。B-EAT は、越境から生まれる貴重な学びとご縁の場です。今後は代表幹事として皆様との繋がりを一層深め、共に視座を高め合い、成長し続けられるよう尽力いたします。今後ともよろしくお願いします。

EAT 株式会社人財アジア
〒100-0005 東京都 千代田区丸の内 1-8-3 丸の内トラストタワー本館 20 階
［TEL］03-6300-6460　［Mail］info@eat-star.asia

特別寄稿および What’ s up?　に掲載して下さる方を募集しています。ご希望の方は事務局までお問合わせのほど、お願い致します。